

【樹木・草花の部屋】

アマドコロ（クサスギカズラ科スズラン亜科アマドコロ属 Polygonatum

odoratum)

和名；アマドコロ(甘野老) **別名**；ナルコラン **英名**；

クサスギカズラ目 宿根草

原産地；日本・東アジア

花言葉；元気を出して、心の痛みの分かる人

花の色；白



⇒ 写真－1 アマドコロの花

撮影日：2004年4月27日

撮影場所：奈良県大和郡山市

M邸にて

撮影者；Mさん

花期は春。花は鐘形で色は白く、先の方は緑がる。葉は普通の緑のものと斑入りのものがある。

写真は我が家の「斑入りのアマドコロ」。

<ちょっと一言>

アマドコロは漢字で「甘野老」と書き、地中の根茎の姿形がヤマイモ科のオニドコロ（鬼野老）に似ており甘みがあるところから名付けられたそうです。

利用：春に伸びた芽を摘んで山菜として、秋に茎葉が枯れたのち根を掘り上げ乾燥させて煎じ薬として利用されたそうです。根茎を乾燥させたものは玉竹（ぎょくちく）または萎蕤（いずい）という生薬で、滋養強壮に効果があるとされています。

茎や根茎には甘みがあり、山菜として食用に……。根茎は特に晩秋が旬とされ、テンプレにすると美味とされ、若芽はゆでて食べられるそうですが、食したことはありません。我が家の庭にも結構、蔓延っていますが……。

同属のナルコユリ（P. falcatum）とよく似ているそうです。2種の違いは茎を触ってひ

【樹木・草花の部屋】

つかかりのあるのがアマドコロ、まったくないのがナルコユリ。通常売られているものはアマドコロであることが多いのですが、名の通りがよいからか、多くはナルコユリとラベルに書かかれて販売されているようです。購入する場合は茎に触って確認を・・・。

別種ですが、花も姿もよく似ているハウチャク (*Disporum sessile*) には毒があるそうです。要注意。

備考：A P G植物分類体系は、1990年代に登場した被子植物の新しい分類体系で、ウィキペディアが採用している分類体系。旧来分類法の新エングラ体系やクロンキスト体系がマクロ形態的な仮説を根拠に演繹的に分類体系を作り上げたのに対して、ミカナゲルム解析から実証的に分類体系を構築するもので、根本的に異なる分類手法だそうです。

こうなると、結構、多くの植物の分類が変動するものと思います。